

# CLTの普及に向けた新ロードマップ ～更なる利用拡大に向けて～

継続実施

新規施策

CLT活用促進に関する  
関係省庁連絡会議  
令和3年3月25日決定

課題	取組事項	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目指す姿
CLTの認知度が低い	CLTに関する情報の発信・CLTを用いた建築物の評価の向上	消費者・事業者等に向けたPR活動の展開					国民にCLTの魅力やその活用の社会的意義などが広く理解される。
		大規模イベント等における活用の促進					
	SDGs・ESG投資等への寄与の「見える化」等						
	モデル的なCLT建築物等の整備の促進	モデル的・先導的建築物の建築、実証事業等の推進					
先駆性の高い建築物・製品の顕彰制度の推進							
公共建築物等への積極的な活用							
コスト面の優位性が低い	まとまった需要の確保	公共建築物等への積極的な活用（再掲）					CLT製品価格が7～8万円/m <sup>3</sup> となり、他工法と比べコスト面でのデメリットが解消される。
	効率的な量産体制の構築	製造施設の整備 (令和6年度末までに年間50万m <sup>3</sup> のCLT生産体制を目指す)					
		CLTパネル等の寸法等の規格化に向けた連携体制の構築	規格化されたCLTパネル等の普及				
	低コストの接合方法等の開発	低コスト接合方法等の普及					
建築コスト関連の情報提供	S造やRC造等とのコスト比較等に関する情報の提供						
需要に応じたタイムリーな供給を行えていない	安定的供給体制の構築	製造施設の整備（再掲）					全国どこでも、需要者からのリクエストに対して安定的に供給される体制が整備される。
		製造メーカー間の連携による安定供給体制の構築	製造メーカー間の連携による安定供給を推進				
CLTの活用範囲が狭い	建築基準・材料規格の合理化	中層CLT建築物の構造計算等の合理化・普及					幅広い範囲の建築物、構造物等でCLTの活用が進む。
		幅広い層構成の基準強度の設定等	告示の普及等				
	効率性の高い非等厚CLT等の規格の拡充	規格の普及					
建築以外の分野での活用	土木分野で活用可能な製品の開発推進	土木分野での活用の実証					
CLTの設計・施工等をしてくれる担い手がみづかりにくい	設計者等の設計技術等の向上	設計者・施工者等に向けた講習会等の推進					CLT建築物の設計等を行うことの出来る設計者等が増加し、必要な設計者等を円滑に選定できる。
		設計者への一元的サポートの推進					
	設計等のプロセスの合理化	設計・積算ツールの開発			設計・積算ツールの普及		
		建築物の部材製造、設計、施工プロセスの一体的デジタル化の推進					
担い手情報の提供	担い手に関する情報の積極的提供						
CLTの維持・管理の方法が分かりにくい	適切な維持・管理情報の提供	既存建築におけるCLT等の木質材料の維持・管理について分析・整理			CLT等の木質材料の維持・管理に関する留意点等の普及		建築主等の中で適切な維持・管理の方法が的確に理解される。

CLTの活用拡大